

2025
3/27
新潟東映ホテル

4年ぶり業務部主催 健康づくり 推進セミナー開催

参加者
120名

テーマは、エビデンスに基づく保健事業 女性の健康支援



3/27 セミナープログラム(13:30~18:30)

挨拶 13:30~13:35

佐藤幸示会長による開会挨拶

演題 I 13:35~14:10

『当会の人間ドック・がん検診の結果から』
企画部 部長 鈴木 貴幸

演題 II 14:15~14:45

当会の学会発表から
『尿中アルブミン検査の取り組み』
①(動画)人間ドック検体検査:正確な結果を伝える舞台裏
②尿蛋白陽性を精密検査対象としないために
③尿中アルブミン検査の結果から
臨床検査部 臨床検査技師 計良 政裕・本間 千智

講演 I 15:00~15:50

『コラボヘルスで取り組む女性の健康づくり支援』

日本航空では、2012年から中長期経営計画に合わせてJALグループ健康増進プロジェクト「JAL Wellness」をスタートさせ、従業員、会社、健康保険組合が一体となった、グループ全体の健康づくりに取り組んできました。
2021年に策定された「JAL Wellness 2025」では、五大目標の一つに「女性の健康」を掲げ、多彩な女性の健康づくり支援を行っています。

日本航空健康保険組合
企画・業務チーム 管理栄養士 佐野 里絵



講演 II 16:00~17:00

『知っておきたい女性の身体~女性の健康支援のために~』

働く女性を応援する全人的な健康支援の取り組みです。
性成熟期、更年期、老年期それぞれの時期特有の疾患の病態を理解し、適切な支援・診療を行う一方で、東京都の[働く女性のウェルネス向上委員会]の専門家コラムを担当、働く女性の健康づくりを支えています。

福島県立医科大学
ふくしま子ども・女性医療支援センター
特認教授 小川 真里子



情報交流会 17:10~18:30

健康づくり推進セミナーレポート

『エビデンスに基づく

保健事業～女性の健康支援～』

を聴講して

業務部 業務一課 課長 八百板 忍

3月ではめずらしいくらいの陽気のなか、県内の企業・団体や健康保険組合をお招きして4年ぶりに「健康づくり推進セミナー」を開催しました。

今回は、「エビデンスに基づく保健事業～女性の健康支援～」というメインテーマで県外より著名な講師をお招きし、講演をお願いしています。

また、当会における精度管理について紹介をさせていただき、ご参加の方々から貴重なご意見を伺える機会となりました。

ご参加いただいた皆様には改めてこの場を借りて感謝申し上げます。

演題Ⅰ「当会の人間ドックの結果から」

演題Ⅰでは、当会鈴木企画部長より、人間ドックの実績や精度管理について、説明を行いました。

当会人間ドックにおけるがん発見率は0.468%であり、全国平均0.36%の1.3倍である事が紹介されました。

また、高いがん発見率を維持するために第三者機関の評価認定を受け、スタッフの専門資格取得を積極的に推進している事についても解説しました。

演題Ⅱ「尿中アルブミン検査の取り組み」

演題Ⅱでは、当会臨床検査部計良主査と本間主任より、尿蛋白陽性になるべく精密検査の対象としないために当会の人間ドックで採用している「尿中アルブミン検査」の意義について解説しました。

腎機能悪化の早期発見を目指し、一方では不要な精密検査を減らす事を目的としたこの取り組みは、当会においては多額のコストが発生しますが、受診者ご本人の身体的、精神的な負担を軽減し、人間ドックの価値自体を高めるためには、非常に重要な事であると認識しています。

また、不要な検査を行わない事は、受診者ご本人や関わる企業・団体、健康保険組合への経済的負担を大幅に軽減する事にもつながります。

講演①「コラボヘルスで取り組む女性の健康づくり支援」

講演①では、日本航空健康保険組合 管理栄養士佐野里絵様よりご講演いただきました。

日本航空の企業理念実現には「心身の健康づくり」が不可欠との認識のもと、5つの重点項目を掲げ社員、会社、健保が一体となった健康づくりに取り組まれています。特に女性の健康事業として、婦人科検診の受診率向上対策やリテラシー向上セミナーをご紹介いただきました。

また、20～30代の加入者では、痩せている割合が増加傾向にあることで、痩せ対策プロジェクトを立ち上げ「痩せていることだけが美しくはない」ことを伝えていくことが紹介されました。

講演②「知っておきたい女性の身体 ～女性の健康支援のために～」

講演②では福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター特任教授小川真里子先生よりご講演いただきました。

働く女性の約60%が女性特有の健康課題などにより職場で困った経験があり、その多くが月経痛やPMS、メンタルヘルス、更年期障害によるもので、その課題により社会全体の経済損失は約3.4兆円と推計される旨解説されました。

また、併せて月経関連疾患のセルフケアと治療方法や更年期障害の原因や治療法についても詳しくご説明いただき、女性ホルモンは、女性の生涯に大きく関わっており、それぞれのライフステージごとにかかりやすい疾患が変化することをご教示いただきました。

今回、女性特有の不調について知り、プレゼンティーズム（何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、業務遂行能力や生産性が低下している状態）につながっている可能性を考えて周囲が気をつけてあげることで、女性が働きやすい職場へとつながっていくのではないかと改めて認識しました。

まとめ

両講演では、最新の知見や取り組みを拝聴できる機会となり、参加者からの積極的な質疑応答も行われました。新潟までお越しいただいた小川先生、佐野様に改めて感謝申し上げます。

また、セミナー後の情報交換会では、両講師にも出席いただくことで、ご参加の皆様との交流の場として貴重な情報を得ることが出来ました。

健康づくり推進セミナーは今後も定期的に開催する予定です。今後も皆様の参加をお待ちしております。

小川真里子先生の講演

「知っておきたい女性の身体」は次号のTRIM273で掲載（ダイジェスト版）します。

